



いちご いちえ ichigo 一笑

昨年度の学校運営協議会の中で、このような話題が出ました

地域の人々の愛に囲まれて育つ
↓
地域に恩返ししたい
↓
地域に戻る

農業の危機感
↓
農業するために戻りたいという子供を作れないか
↓
・農家の集まりがあるといい。(地域)
・農業の魅力を伝える出前授業(学校)
(学校はすでに行っている。)
※これを地元の方にやっていただくとよいか



地域に子供が戻るためには、産業が必要だ、という話になりました。鹿沼市のかんぴょう農家の激減に嘆いていた方のお話が印象的でした。鹿沼市は、様々な資源があります。農業も頑張っています。今回は、生涯学習課で主催している講座で、「地域デビュー講座」を紹介したいと思います。鹿沼市のお宝で、豊富な森林資源を活かした「林業」に注目した講座です。農業と林業、その他で地域の宝を活かしていけたら最高です。



木のまち鹿沼について学ぼう
栃毛木材工業で学びました
関口社長の丁寧な説明に皆さん熱心に学びました。栃毛では、SDGSを意識した製材・加工をしているそうです。
①林業は、成長産業のひとつ
②昔は3Kの代表だったが今は違う。
③若い人を受け入れられる環境を作っている。
④機械が進化して、スニーカーで山作業できる時代。
⑤みなみ高校は、年1回研修に来ている。
⑥多くの若い人は、この現状を知らず、見たことのない産業だと思う。
⑦栃木県に間もなく林業学校ができる。
⑧**中学生に是非社会科見学に来てほしい。**
など、コミュニティ・スクールにとって夢のある話がありました。

ゲーム世代の子供たちにとって魅力的なオペレーションシステム。部屋は、冷暖房完備。木材の太さ、材質を見極め、適切にオペレーションします。



林業の仕事に小さいころから憧れていたという18歳の女性が栃毛に就職しました。この油圧シャベルを操作しているのは彼女です。心から応援します！



木のまち鹿沼について学ぼう

星野工業(玉田町)で学びました

- ①宮大工から鹿沼の木工が始まったと言われている。
 - ②鹿沼は、交通の便がいい恵まれた土地であった。
 - ③星野工業は1945年創業。初代が桶屋として始める。そして、時代に応じた物を提案していった。その時代に使われる道具のリサーチで生き残った。
 - ④国産材が7~8割。間伐材をメインとして使っている。
 - ⑤材料を無駄にしないよう、すりこぎ棒やしゃもじ、へら等を作っている。
 - ⑥燃料もくず材を使っている。
 - ⑦「適材適所」という言葉があるように日本人は木の文化。
 - ⑧機械化されているが、最後は必ず人の手をかける。必ず人の手をかけないとうまくいかない。人の目と手は大切。
 - ⑨健全な森づくりのために森林環境税がとられている。
- ★星野工業でも、若い女性の方が働いていました。中学校の「技術」の授業で木工制作に興味を持ち現在の職業についてたそうです。
- ★星野社長が、小中学生の社会科見学に来てくださって大丈夫ですよ、とおっしゃっていたので、是非。



小中学校で使われている学習机と椅子を作っています。見学者が懐かしく見ていくそうです。

「栃毛工業」「星野工業」は時代とともに成長した企業だと思います。〈伝統は革新だ〉と言われるように伝統を守るには、革新の勇氣が必要です。コミュニティ・スクールも同じことが言えるかもしれません。地域を守るためにコミスクという革新をご利用ください。

コミスク出前授業；青少年育成市民会議編

11月24日(木)に、東部地区青少年育成市民会議に、コミュニティ・スクールについての出前授業を依頼されました。30人を超える熱心な皆さんの研修でした。グループワークでは、それぞれの自己紹介から現状の情報交換など、話が弾みました。



鹿沼市HP「コミュニティスクール」



コミュニティ・スクールの大きな目的は、「つながる」・「仲良くなる」です。研修には、必ずグループワークを取り入れて、皆さんがつながる時間をとっています。



発行：鹿沼市教育委員会事務局

生涯学習課生涯学習係
学校教育課指導係

☎63-3498
☎63-2236

